

▼**競技趣旨** 芦屋ユナイテッドリレーマラソンは、芦屋の豊かな自然のもとで、各種のレベルの選手が協力しあって所定の距離を走ることで、参加者全体でランニングの面白さを共有することを第1の目的とします。物理的な制約もあり、コースの一部に狭小なところもありますが、開催趣旨を各選手が理解し、事故のないようお互いに配慮してランニングを楽しむことを優先します。

▼**競技規定**

1. コース・種目

陸上競技場を起点とし、ミラタップパーク芦屋（芦屋市総合公園）を利用した1周1,110mの特設コースを周回する。

[フルリレーマラソン(以下フル) 42.195km] 全38周と第1走者のみスタート直後に陸上競技場での15mを走る。

[ハーフリレーマラソン(以下ハーフ) 21.0975km] 全19周と第1走者のみスタート直後に陸上競技場での19.75mを走る。

[ファミリークォーターリレーマラソン(以下ファミリー) 10.549km] 全9周と第1走者のみスタート直後に陸上競技場での559mを走る。

2. 選手・走者

あらかじめ申し込みした人数で、各種目の条件を満たした者でチームを構成し当日受付にて選手一覧として提出して選手エントリーをする。事前申し込み人数に満たない場合も参加を認めるが、欠員選手分の参加費の返還は行わない。

※[ファミリー]は、欠員選手が出るとチーム要件を満たさない場合が生じるが、この場合は協議を経て競技委員長が対応を決定する。

タスキを装着してコースを走行する者を走者とする。競技中各チームコース上には走者1名のみ走行できる。ただしリレーゾーンは次の周回をする選手(次走者)が待機しタスキを受け取ることができる。

3. チーム

[フル] 中学生以上で自力で1周以上を走ることのできる4名～12名の選手で構成されるチーム。

[ハーフ] 中学生以上で自力で1周以上を走ることのできる3名～10名の選手で構成されるチーム。

[ファミリー] 小学生を1名以上含む自力で走ることのできる5選手までのチーム。ただし小学生は2周まで走ることができる。小学生も第1走者(1,669m走行)を務めることができる。小学生5選手だけで構成されるチームも認める。

4. ナンバーカード

各チームにはエントリー選手人数分のナンバーカードが発行される。選手は胴体前面に第三者から確実に見えるように競技終了時まで取り付ける。ナンバーカードの改造・書き込みは認めない。

5. タスキ

各チームにICチップ内蔵タスキ(以下タスキ) 1本が支給される。タスキは必ず走者が装着して走る。競技終了後、最終走者は速やかに係員にタスキを返却する。返却の確認が取れない場合は、チームに実費請求を行うことがある。

6. トラック/フィールド

陸上競技場トラック(クレー)へは走者と次走者のみ侵入ができる。走者以外の選手がやむなくトラックを横断する際は、走者を妨害することなく速やかに横断する。フィールド(ピッチ)への侵入は認めない。

7. リレー

陸上競技場メインストレート部分にリレーゾーンを設ける。各チームの走者交代はこのリレーゾーン内のみで、タスキを次走者に受け渡すことで認められる。各選手の周回数は事前に届け出る必要はない。また一度走行して退いた選手も再び走者として走行できる。

8. 記録測定

フィニッシュライン延長上に時間測定ポイントを設ける。タスキに内蔵されたICチップが通過することで周回数、経過時間を測定する。

9. スタート

種目ごとに定めたスタート地点から一斉にスタートする。スタート地点には第1走者のみ侵入可能とする。[ファミリー]→[フル/ハーフ]の順でスタートを行う。スタート地点での整列順は指定しないが、[フル/ハーフ]は危険防止のため目標タイム上位者を前にするように運用する。

10. 周回数

周回数は原則各チームにてカウントし、最終周回においては走者は自主的にフィニッシュする。周回数は、計測テントに定時に掲示する途中記録でも確認することができる。

11. フィニッシュ

計測ポイントの外側延長上にフィニッシュラインを設ける。この地点を所定の周回を終えたタスキが通過した時点が各チームのフィニッシュタイムとなる。

12. 時間制限

スタートから4時間30分を競技終了時間とし計測を終了する。時間内でフィニッシュできないチームは記録なしとする。

13. リタイア

完走前に競技を中止する場合は、走者が近くの走路員にその旨を申し出る。リタイアしたチームは速やかにタスキを本部に返却する。

14. ペナルティ

コースを外れる、意図的に走路を妨害する、選手登録していない者が走行するなど不正が認められた場合、大会役員は当該走者に走行停止をさせ同チームを失格とする。

15. 表彰

各種目上位3チームを表彰する。種目ごとに当該チームが決定次第速やかに本部付近にて表彰を行う。

16. その他

事故などで競技の継続が困難な事象が生じた場合は、全チームの走行を中断し、しかるべし措置の後復旧の確認ができた時点で競技を再開する。その他競技規定に定めない事項で重大な変更を余儀なくされる場合は、大会事務局の協議を経て実行委員会会長が対応を決定する。

